

## VI. 大学・短大と地域産業の関わりに関するアンケート調査結果

### 6-1. 調査概要

「第3期茨木市産業振興アクションプラン」(R.3年度改定)の取組や近年の産業を取り巻く情勢を踏まえた上で、周辺地域の大学・短大における産学連携や起業家教育の、就職支援や市内企業への就職に関する実態や課題を把握するため、大阪府内・北摂地域に立地する大学・短大を対象にアンケートを実施した。

調査対象者 茨木市内をはじめとする、大阪府内・北摂地域に立地する大学・短大

回収数 配布先 23 機関／回収数 15 機関

実施期間 2023 年 9 月～10 月

#### 【設問項目】

|                         |                                                      |
|-------------------------|------------------------------------------------------|
| A. 大学・短大の概要             | 問 1. 在籍人数、市内居住割合について                                 |
|                         | 問 2. 担当部署について                                        |
|                         | 問 3. コロナによる学生への影響                                    |
| B. 産学連携の取組              | 問 4. 過去 5 年間に事業者と連携した取組、茨木市内の事業者と連携した取組              |
|                         | 問 5. 産学連携のきっかけ                                       |
|                         | 問 6. 産学連携による効果<br>(研究活動や学生の学び、連携事業者の利益増進、地域の産業活性化など) |
|                         | 問 7. 5 年前と比べた産学連携の取組や相談の増減                           |
|                         | 問 8. 産学連携の導入や効果的な運用に当たっての課題                          |
| C. 起業家教育の取組             | 問 9. 起業家教育の取組状況                                      |
|                         | 問 10. 特に効果があったもの、ニーズや関心が高いもの                         |
|                         | 問 11. 5 年前と比べた学生の起業意識                                |
|                         | 問 12. 在学中・卒業後の起業状況                                   |
|                         | 問 13. 行政と連携すれば効果があると考えること                            |
|                         | 問 14. 起業家教育に取り組む上での課題                                |
| D. 就職支援の取組・<br>市内企業への就職 | 問 15. キャリア教育・労働者教育の実施状況                              |
|                         | 問 16. 茨木市内の企業等との関わり                                  |
|                         | 問 17. 茨木市内の企業等に就職した学生                                |
|                         | 問 18. 行政と連携すれば効果があると考えること                            |
|                         | 問 19. 就職支援に取り組む上での課題                                 |

## 6-2. 調査結果

※調査結果の割合(%)は小数点以下第2位を四捨五入し算出しているため、内訳の合計が必ずしも 100%とならない場合がある。

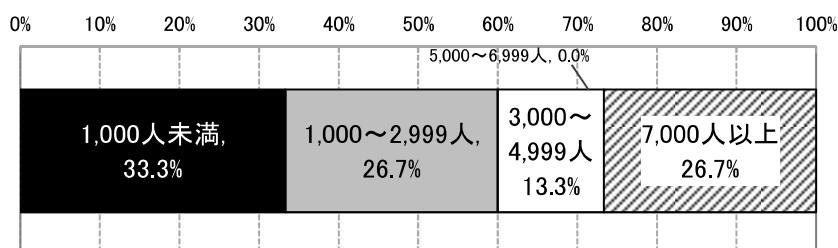
### A. 大学・短大の概要

#### 問1-①. 在籍人数

＊ 「1,000 人未満」が 33.3%と最も多く、次いで「1,000～2,999 人」「7,000 人以上」（ともに 26.7%）、「3,000～4,999 人」（13.3%）と続く。

| 【在籍人数】        | 回答数 | 構成比   |
|---------------|-----|-------|
| 1,000 人未満     | 5   | 33.3% |
| 1,000～2,999 人 | 4   | 26.7% |
| 3,000～4,999 人 | 2   | 13.3% |
| 5,000～6,999 人 | 0   | 0.0%  |
| 7,000 人以上     | 4   | 26.7% |

〔問1-①〕在籍人数 (N=15)

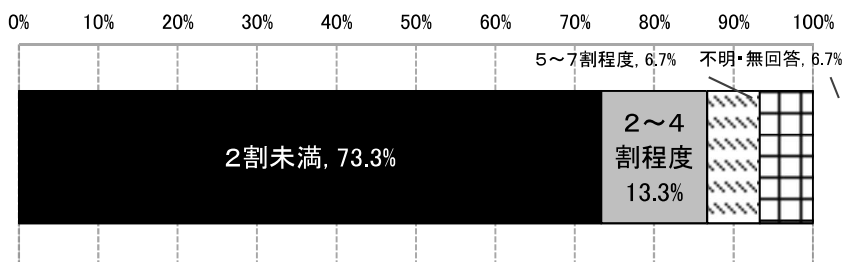


#### 問1-②. 市内居住割合

＊ 「2 割未満」が 73.3%と多数を占める一方、8 割以上と回答する者はみられず、全般的に市内居住者の割合は小さい。

| 【市内居住割合】 | 回答数 | 構成比   |
|----------|-----|-------|
| 2 割未満    | 11  | 73.3% |
| 2～4 割程度  | 2   | 13.3% |
| 5～7 割程度  | 1   | 6.7%  |
| 8 割以上    | 0   | 0.0%  |
| 不明・無回答   | 1   | 6.7%  |

〔問1-②〕市内居住割合 (N=15)

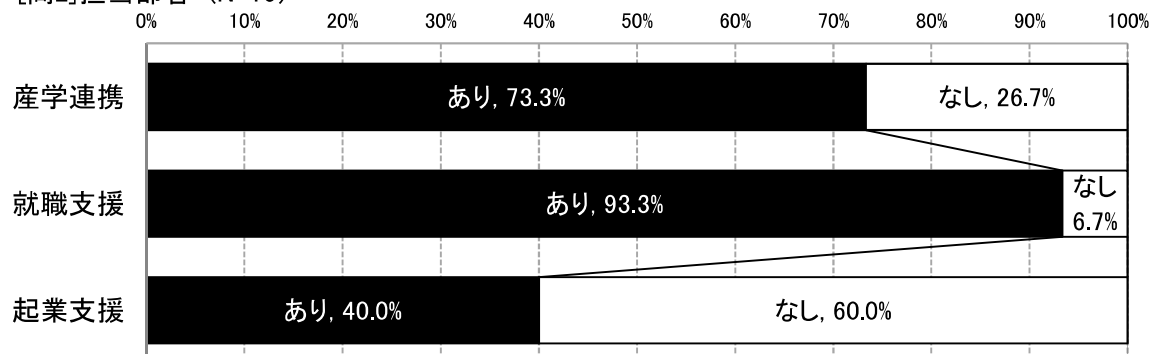


#### 問2. 担当部署について

＊ 産学連携の担当部署を有する大学・短大は 73.3%、就職支援の担当部署を有する大学・短大は 93.3%、起業支援の担当部署を有する大学・短大は 40.0%であった。

| 担当部署 | 【産学連携】 |       | 【就職支援】 |       | 【起業支援】 |       |
|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
|      | 回答数    | 構成比   | 回答数    | 構成比   | 回答数    | 構成比   |
| あり   | 11     | 73.3% | 14     | 93.3% | 6      | 40.0% |
| なし   | 4      | 26.7% | 1      | 6.7%  | 9      | 60.0% |

〔問2〕担当部署 (N=15)



### 問 3. コロナによる学生への影響

- \* 具体的な回答がみられた 6 機関における課題をキーワード整理すると、変化がなかったと回答する大学・短大がある一方、志望企業への判断が鈍化した、新卒採用の取りやめ・縮小があった、公務員試験の後ろ倒しにより民間企業への志望変更が遅延したといった、マイナスの影響があったと回答する大学・短大が複数みられた。
- \* この他に、IT リテラシーの差による感度の二極化、志望業界の変化、在宅勤務を判断基準にする学生が増えたという就職先の選定に係る判断基準が変化したという回答も複数みられた。

#### 【回答内容】

| キーワード                                        | 具体的な回答内容                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ▶変化なし                                        | 就職について意識の変化はあまりみられない。                                                                                                                       |
| ▶志望企業への判断が鈍化                                 | 起業についての意識は調査等していないので不明であるが、就職活動をするにあたり、対面で企業を訪問できない等の影響で、自身に適している企業か否か判断するのが難しかったと思われる。                                                     |
| ▶新卒採用の取りやめ、縮小<br>▶公務員試験の後ろ倒しにより民間企業への志望変更が遅延 | コロナ禍の影響を大きく受けた 2020 年度(2021 年3月)卒では、業種によっては新卒採用の取り止めや縮小を行う企業があったこと、公務員採用試験が後ろ倒しになり、一般企業への志望変更のタイミングが遅くなったこと等、少なからずコロナが本学学生の就職にも影響したものと考ええる。 |
| ▶IT リテラシーの差による感度の二極化                         | 就職活動環境がインターネットにシフトする中、情報取得・整理に苦戦する学生と、IT リテラシーが高く情報へのアンテナ感度が高い学生の二極化が拡大した。                                                                  |
| ▶志望業界の変化                                     | 社会情勢の変化により、志望業界の変化を強いられることとなった。<br>具体的には旅行・航空関係への就職はほとんどみられなくなった代わりに、ホテル・小売といった業界への就職が増加した。                                                 |
| ▶在宅勤務を判断基準に                                  | 在宅勤務を導入する企業が増え、働き方の選択肢として在宅勤務が選べるかを企業選びの基準の一つに取り入れる学生が増えた。                                                                                  |

## B. 産学連携の取組

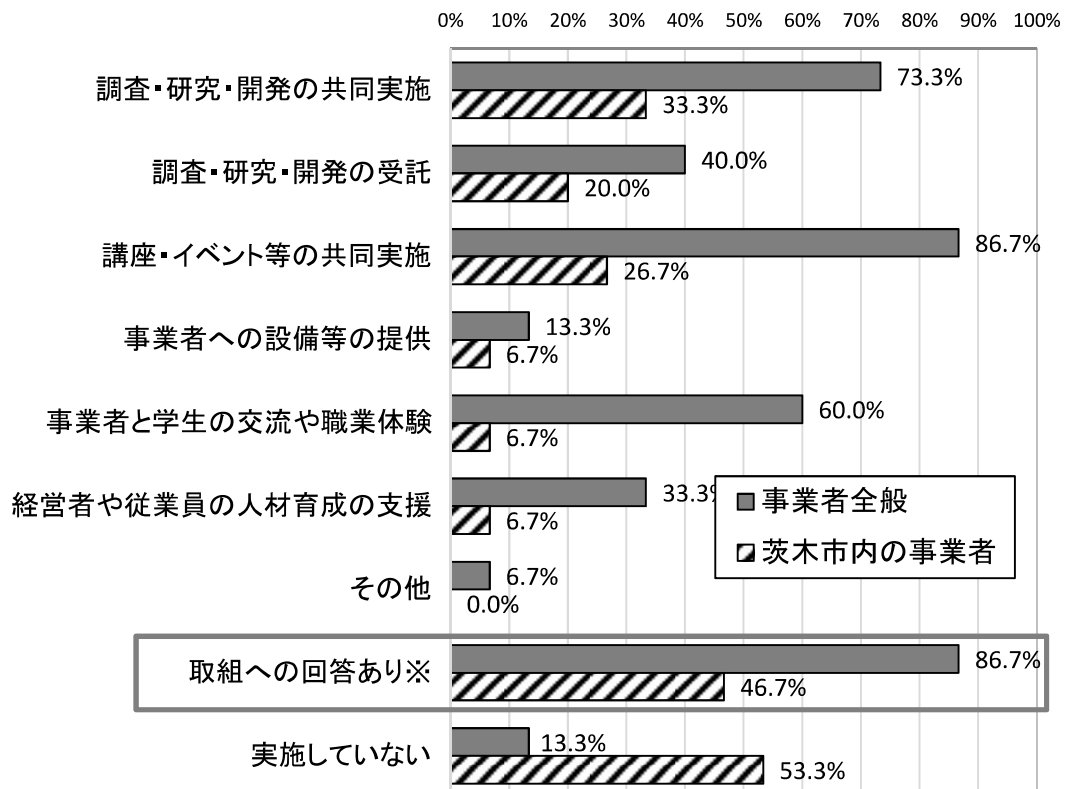
### 問4. 過去5年間に事業者と連携した取組（複数回答）

- \* 事業者全般では、「講座・イベント等の共同実施」が86.7%と最も多く、次いで「調査・研究・開発の共同実施」(73.3%)、「事業者と学生の交流や職業体験」(60.0%)と続き、これら3点はいずれも60%以上を占めており、産学連携の取組として多数展開されているものと考えられる。
- \* 茨木市内の事業者に限定すると、「調査・研究・開発の共同実施」が33.3%と最も多く、次いで「講座・イベント等の共同実施」(26.7%)、「調査・研究・開発の受託」(20.0%)と続く。また、取組への回答があった大学・短大が46.7%に止まり、事業者全般(86.7%)と比べて少ない。

| 過去5年間に事業者と連携した取組 | 【事業者全般と連携】 |       | 【茨木市内の事業者と連携】 |       |
|------------------|------------|-------|---------------|-------|
|                  | 回答数        | 構成比   | 回答数           | 構成比   |
| 調査・研究・開発の共同実施    | 11         | 73.3% | 5             | 33.3% |
| 調査・研究・開発の受託      | 6          | 40.0% | 3             | 20.0% |
| 講座・イベント等の共同実施    | 13         | 86.7% | 4             | 26.7% |
| 事業者への設備等の提供      | 2          | 13.3% | 1             | 6.7%  |
| 事業者と学生の交流や職業体験   | 9          | 60.0% | 1             | 6.7%  |
| 経営者や従業員の人材育成の支援  | 5          | 33.3% | 1             | 6.7%  |
| その他              | 1          | 6.7%  | 0             | 0.0%  |
| 取組への回答あり※        | 13         | 86.7% | 7             | 46.7% |
| 実施していない          | 2          | 13.3% | 8             | 53.3% |

※取組に関する項目を1つ以上選択した者

[問4]過去5年間に事業者と連携した取組(N=15)

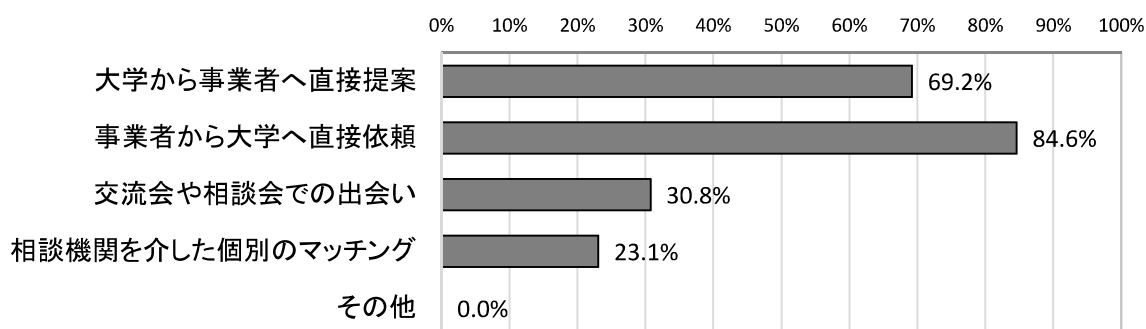


## 問5. 産学連携のきっかけ（複数回答）

- \* 「事業者から大学へ直接依頼」が84.6%と最も多く、次いで「大学から事業者へ直接提案」(69.2%)、「交流会や相談会での出会い」(30.8%)と続く。

| 【産学連携のきっかけ】      | 回答数 | 構成比   |
|------------------|-----|-------|
| 大学から事業者へ直接提案     | 9   | 69.2% |
| 事業者から大学へ直接依頼     | 11  | 84.6% |
| 交流会や相談会での出会い     | 4   | 30.8% |
| 相談機関を介した個別のマッチング | 3   | 23.1% |
| その他              | 0   | 0.0%  |

[問5]産学連携のきっかけ(N=13)※事業者との連携実績があると回答した大学のみ

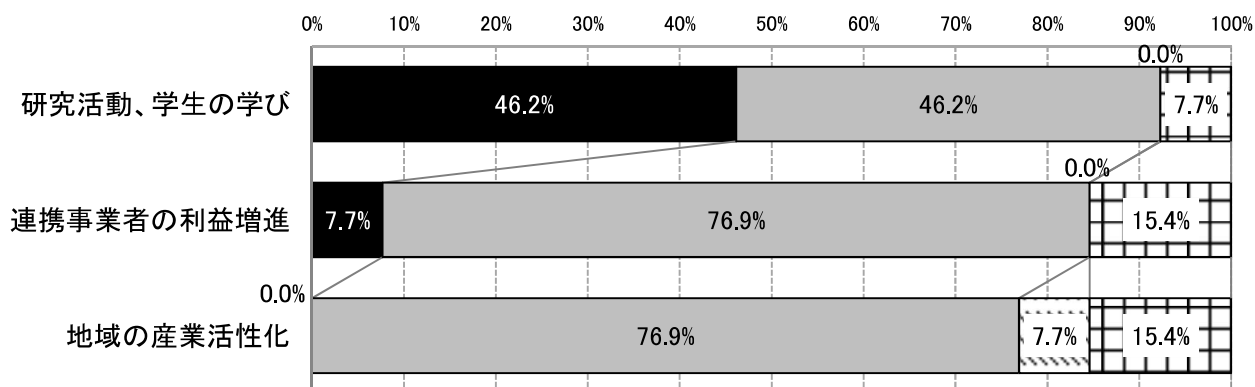


## 問6. 産学連携による効果

- \* 研究活動、学生の学びについては、「大きな効果があった」が46.2%を占めるのをはじめ、効果があると回答した者が92.4%ときわめて高くなっている。
- \* また、連携事業者の利益増進や、地域の産業活性化については、効果があると回答した者はそれぞれ84.6%、76.9%と過半数を占めているが、いずれも「大きな効果があった」への回答が少なく、研究活動、学生の学びに比べると、効果についての評価は低くなっている。

| 担当部署        | 【研究活動、学生の学び】 |       | 【連携事業者の利益増進】 |       | 【地域の産業活性化】 |       |
|-------------|--------------|-------|--------------|-------|------------|-------|
|             | 回答数          | 構成比   | 回答数          | 構成比   | 回答数        | 構成比   |
| 大きな効果があった   | 6            | 46.2% | 1            | 7.7%  | 0          | 0.0%  |
| 効果があった      | 6            | 46.2% | 10           | 76.9% | 10         | 76.9% |
| あまり効果がなかった  | 0            | 0.0%  | 0            | 0.0%  | 1          | 7.7%  |
| まったく効果がなかった | 0            | 0.0%  | 0            | 0.0%  | 0          | 0.0%  |
| 無回答         | 1            | 7.7%  | 2            | 15.4% | 2          | 15.4% |

[問6]産学連携による効果(N=13)※事業者との連携実績があると回答した大学のみ



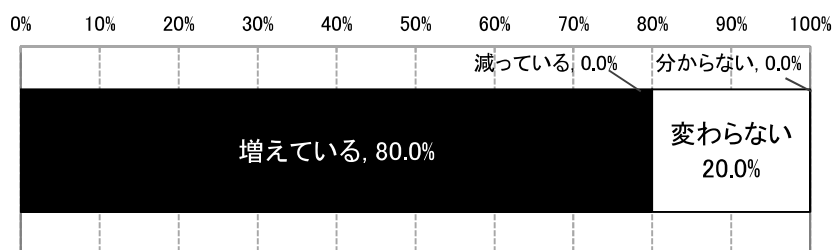
■ 大きな効果があった □ 効果があった □ あまり効果がなかった ■ まったく効果がなかった □ 無回答

## 問7. 5年前と比べた産学連携の取組や相談の増減

＊ 「増えている」と回答した者が 80.0%と多数を占めており、茨木市をはじめとする北摂地域の大学・短大では、5年前と比べて産学連携の取組や相談は増えているものと考えられる。一方、「減っている」と回答した者は見られなかった。

| 【産学連携の取組<br>や相談の増減】 | 回答数 | 構成比   |
|---------------------|-----|-------|
| 増えている               | 12  | 80.0% |
| 減っている               | 0   | 0.0%  |
| 変わらない               | 3   | 20.0% |
| 分からない               | 0   | 0.0%  |
| 無回答                 | 0   | 0.0%  |

【問7】5年前と比べた産学連携の取組や相談の増減（N=15）



## 問8. 産学連携の導入や効果的な運用に当たっての課題

- ＊ 具体的な回答がみられた6機関における課題をキーワード整理すると、「マッチング」は3か所から、「専門人材等不足」は2か所から、それぞれ回答がみられた。
- ＊ この他に、「茨木市内の事業者との接点がない」「研究活動との両立」「担当部署の設置」「手続きが煩雑」といった様々な課題があげられた。

### 【回答内容】

| キーワード            | 具体的な回答内容                                                                                                                 |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ▶専門人材等不足         | 産学連携・国際連携などの専門的知識を持った職員の育成                                                                                               |
| ▶マッチング           | 大学のシーズと企業のニーズのマッチング                                                                                                      |
| ▶マッチング           | ニーズとシーズのマッチング。                                                                                                           |
| ▶専門人材等不足         | 学内における産学連携を担える教員は決して多くなく、ニーズに応えられないケースもある。                                                                               |
| ▶マッチング           | 本学の産官学連携は授業連携を主としており、各学科・コースでの学びを最大化するという教育的側面が強い。一方、相談を持ち込む企業側には、ビジネス上の利益の側面（少ない費用で商品開発ができる）を最大のメリットと考えておられるケースが見受けられる。 |
| ▶茨木市内の事業者との接点がない | 仕事の依頼を検討したい茨木市内の事業者や市役所の担当者と面談する機会がないこと。                                                                                 |
| ▶研究活動との両立        | 研究シーズから共同研究等につながるまでの資金を支援してもらえる制度・しくみが少ない。                                                                               |
| ▶担当部署の設置         | 教員の研究時間を確保すること。                                                                                                          |
| ▶担当部署の設置         | 担当部署の設置                                                                                                                  |
| ▶手続きが煩雑          | 手続きの多い場合は非常に時間を有してしまう。                                                                                                   |

## C. 起業家教育の取組

### 問9. 起業家教育の取組状況（複数回答）

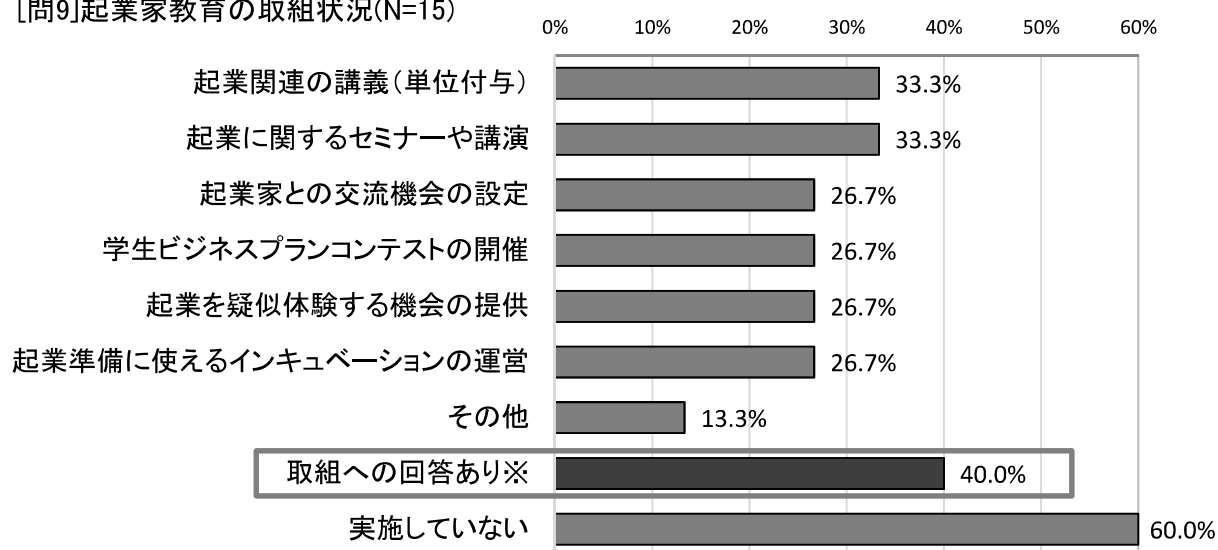
\* 取組の中では「起業関連の講義（単位付与）」「起業に関するセミナーや講演」がともに 33.3%と最も多い。

\* 起業家教育の取組について回答した者は 40.0%であった。

| 【起業家教育の取組状況】         | 回答数 | 構成比   |
|----------------------|-----|-------|
| 起業関連の講義（単位付与）        | 5   | 33.3% |
| 起業に関するセミナーや講演        | 5   | 33.3% |
| 起業家との交流機会の設定         | 4   | 26.7% |
| 学生ビジネスプランコンテストの開催    | 4   | 26.7% |
| 起業を疑似体験する機会の提供       | 4   | 26.7% |
| 起業準備に使えるインキュベーションの運営 | 4   | 26.7% |
| その他                  | 2   | 13.3% |
| 取組への回答あり※            | 6   | 40.0% |
| 実施していない              | 9   | 60.0% |

※取組に関する項目を1つ以上選択した者

[問9]起業家教育の取組状況(N=15)



## 問 10. 特に効果があったもの、ニーズや関心が高いもの

- \* 具合的な回答がみられた 5 機関におけるキーワードを整理すると、「ビジネスプランコンテスト」「起業関連の講義」を回答する大学・短大がそれぞれ 2 機関みられた。
- \* この他に、「起業家との交流」「起業家プログラム」「インキュベーション運営」があげられた。

### 【回答内容】

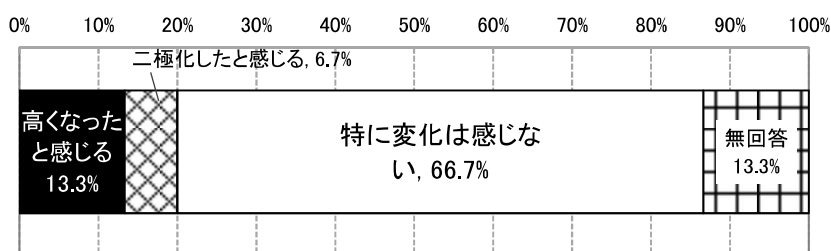
| キーワード         | 具体的な回答内容                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ▶ビジネスプランコンテスト | 学生ビジネスプランコンテスト、起業関連の講義、起業家との交流機会の設定をシームレスに                                                                                                                                                                                                                                            |
| ▶起業関連の講義      | 組み合わせて実施することでコミュニティや関係性が生まれ、その土台のもとで事業への参                                                                                                                                                                                                                                             |
| ▶起業家との交流      | 加や起業の動きが見られている。                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ▶起業家プログラム     | 半期で実施する起業プログラム。メンター(起業家、VC 等)との壁打ちが好評。希望者が参加                                                                                                                                                                                                                                          |
| ▶起業関連の講義      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正課授業である「起業入門」は、毎回実務家を講師としてお招きして話をさせていただいているが、200 名を超える履修があり、毎回熱心に学生が講義を聞いている。</li> <li>・起業体験プログラムなども正解のない社会で自ら考え行動する力を涵養することができている。</li> <li>・共通教養科目「起業に学ぶ『考動力』入門」:全学部生対象、約 300 名履修</li> <li>・共通教養科目「起業に学ぶ『考動力』実践」:全学部生対象、約 20 名履修</li> </ul> |
| ▶ビジネスプランコンテスト | 学生ビジネスプランコンテストはビジネスプランの発表による学生の起業家精神の醸成に寄与している。                                                                                                                                                                                                                                       |
| ▶インキュベーション運営  | インキュベーションの運営。2022 年度は、8 団体・1 社 / 30 名が利用                                                                                                                                                                                                                                              |

## 問 11. 5 年前と比べた学生の起業意識

- \* 「特に変化は感じない」と回答した者が 66.7%と最も多い。また、「高くなったと感じる」(13.3%)への回答と「二極化したと感じる」(6.7%)への回答もみられ、このことから、一部の大学・短大や学生においては、起業意識が高まっているものと考えられる。

| 【5 年前と比べた学生の起業意識】 | 回答数 | 構成比   |
|-------------------|-----|-------|
| 高くなったと感じる         | 2   | 13.3% |
| 低くなったと感じる         | 0   | 0.0%  |
| 二極化したと感じる         | 1   | 6.7%  |
| 特に変化は感じない         | 10  | 66.7% |
| 無回答               | 2   | 13.3% |

[問11]5年前と比べた学生の起業意識 (N=15)

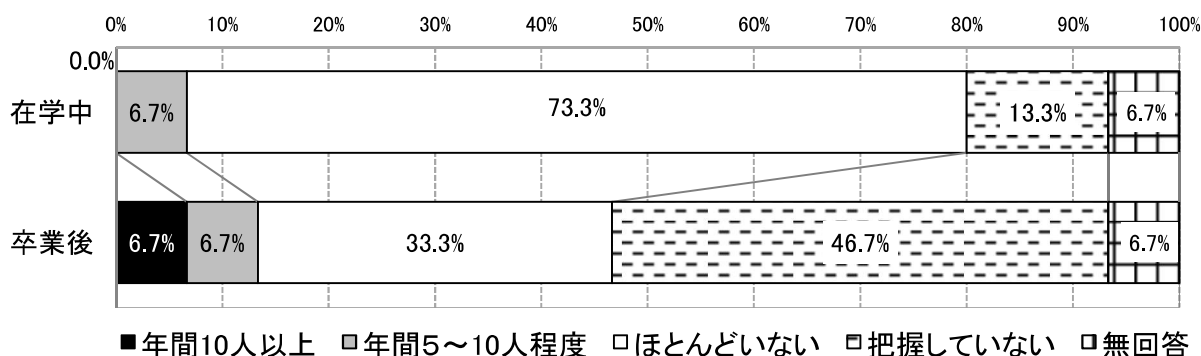


## 問 12. 在学中・卒業後の起業状況

＊ 年間5名以上の起業者がいる大学・短大は、在学中で6.7%、卒業後で13.3%であった。

| 在学中・卒業後の起業状況 | 【在学中】 |       | 【卒業後】 |       |
|--------------|-------|-------|-------|-------|
|              | 回答数   | 構成比   | 回答数   | 構成比   |
| 年間10人以上      | 0     | 0.0%  | 1     | 6.7%  |
| 年間5～10人程度    | 1     | 6.7%  | 1     | 6.7%  |
| ほとんどいない      | 11    | 73.3% | 5     | 33.3% |
| 把握していない      | 2     | 13.3% | 7     | 46.7% |
| 無回答          | 1     | 6.7%  | 1     | 6.7%  |

〔問12〕在学中・卒業後の起業状況(N=15)



## 問 13. 行政と連携すれば効果があると考えること

＊ 具的な回答がみられた6機関におけるキーワードを整理すると、「起業家等との交流の場」「資金助成」を回答する大学・短大がそれぞれ2機関あった。

＊ この他に、「起業プログラム」「ワーキングスペース提供」「社会課題の提示」「学内イベント参画」「情報提供」「ネットワーク形成」「実証実験の場提供」「ベンチャー企業インターンシップ」などの回答もみられた。

### 【回答内容】

| キーワード                             | 具体的な回答内容                                                                                                                                              |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ▶資金助成<br>▶起業プログラム<br>▶ワーキングスペース提供 | 起業資金支援、起業プログラム(講座)の提供、起業ワーキングスペースの提供                                                                                                                  |
| ▶社会課題の提示<br>▶資金助成                 | 各自治体が特に重要と考えられている社会課題の提示。起業および起業後一定期間の資金援助。                                                                                                           |
| ▶学内イベント参画<br>▶起業家等との交流の場          | 単発的なイベントやセミナーの開催に学生を動員するより、月次で本学キャンパスで開催している催しでWSやセッションの持込、ブース設置などを検討いただくことが効果的かもしれません。また、各種の地域の起業家を上記の場に動員(セッション調整も可)いただくなど、コミュニティ創りをご支援いただけると有難いです。 |
| ▶情報提供<br>▶ネットワーク形成                | ・起業に関する情報提供<br>・ネットワーキング                                                                                                                              |
| ▶実証実験の場提供<br>▶ベンチャー企業インターンシップ     | ・市町村との連携を行い、各地域のイベント等で実証実験等が行えると非常に効果があると考えられる。<br>・行政を通じたベンチャー・スタートアップとのネットワーク構築(インターンシップ受入れベンチャーの紹介など)                                              |
| ▶起業家等との交流の場                       | 既に実施機会を持ったが、市職員を含め、まず社会人と学生との交流が必要であると考えられる。当学では、2022年度の「グズコンテスト」に茨木市職員の方に審査員として参画をいただき、専門的、また社会人として審査とコメントをいただいている。                                  |

## 問 14. 起業家教育に取り組む上での課題

- \* 具合的な回答がみられた5機関におけるキーワードを整理すると、「学生の意識啓発」を回答する大学・短大が4機関と最も多い。また、「ノウハウ不足」への回答も2機関からあった。
- \* この他に、「授業と連動した取組の設定」「専門人材等不足」「大学内の意識啓発」といった回答があげられた。

### 【回答内容】

| キーワード                                        | 具体的な回答内容                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ▶授業と連動した取組の設定<br>▶ノウハウ不足                     | 起業家精神を学ぶ人数の「裾野」を広げるには、課外としての実施では限界があり、やはり正課と連動した取組が効果的かつ必要である。<br>「本当に起業すること」や「本気で将来起業すること」「起業後」に対する支援や環境構築と「起業家精神やスキルを学ぶこと」に対する仕組みの構築は、完全に切り分けられるものではないとはいえ、大きく違うものと捉えている。そこを切り分けて施策検討することが重要と思われる。 |
| ▶学生の意識啓発<br>▶専門人材等不足<br>▶ノウハウ不足<br>▶大学内の意識啓発 | ・起業というワードは根付いてきているが、学生の思考に大きな変化はなく、大学前の幼少期からのマインドセットや中高の正解思考を変えていくことが必要であり、課題だと感じる。<br>・起業支援、アントレプレナーに富んだ専任教員がいないこと<br>・起業に関心のない学生に対するアプローチ<br>・アントレプレナーシップ教育に関する学内の理解向上                             |
| ▶学生の意識啓発                                     | 一般的傾向として、景気悪化により起業の傾向は強くなる。ただし、現在の当学学生の現状を見ると、大企業志向、公務員志向、資格取得志向などの「安定志向」が強くなっているように感じられる。まず、学生に「起業の魅力」を伝える取組が必要であると考えます。                                                                            |
| ▶学生の意識啓発                                     | 情報収集やセミナー、プログラムを充実させても、最終的には、どれだけすぐの実行、テストできるか。これを超えられる学生が少ない(想いで止まる。)                                                                                                                               |
| ▶学生の意識啓発                                     | 学生への社会課題に対する意識付け。                                                                                                                                                                                    |

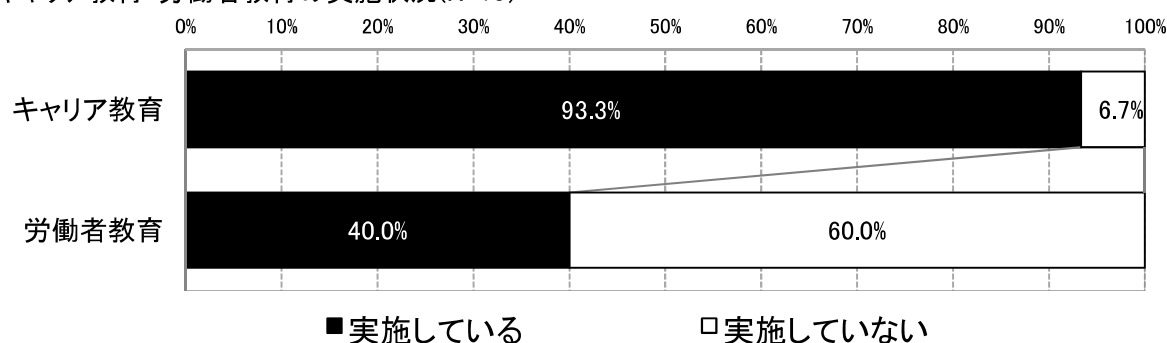
## D. 就職支援の取組・市内企業への就職

### 問 15. キャリア教育・労働者教育の実施状況

- \* キャリア教育を実施している大学・短大は93.3%、労働者教育を実施している大学・短大は40.0%であった。

| キャリア教育・労働者教育の実施状況 | 【キャリア教育】 |       | 【労働者教育】 |       |
|-------------------|----------|-------|---------|-------|
|                   | 回答数      | 構成比   | 回答数     | 構成比   |
| 実施している            | 14       | 93.3% | 6       | 40.0% |
| 実施していない           | 1        | 6.7%  | 9       | 60.0% |

[問15]キャリア教育・労働者教育の実施状況(N=15)

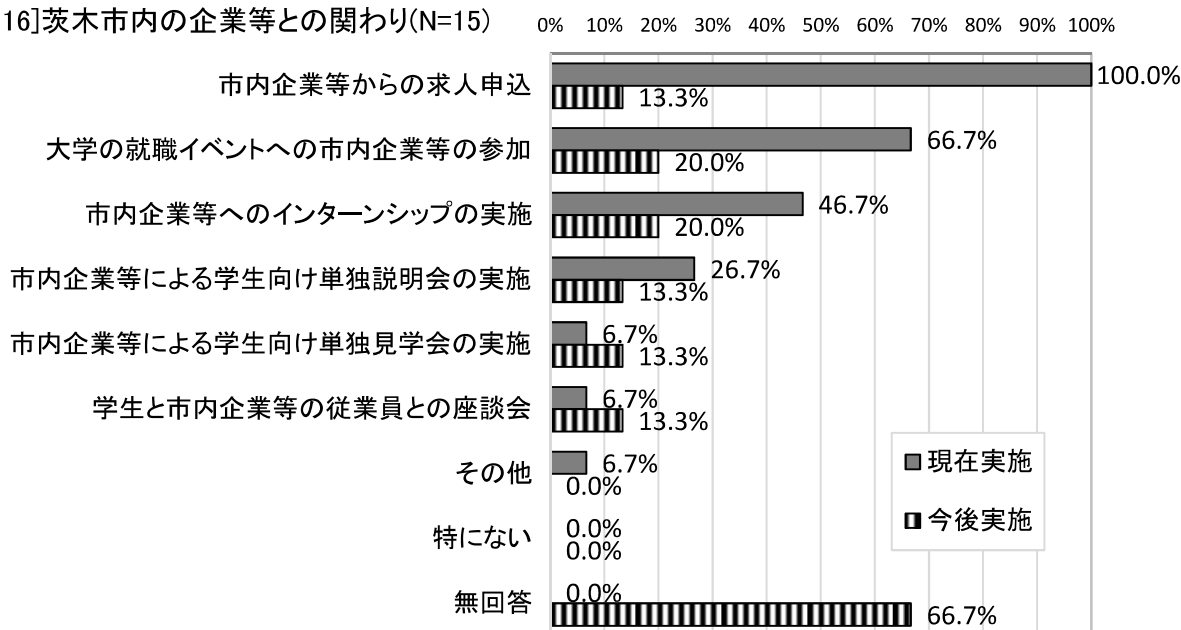


## 問 16. 茨木市内の企業等との関わり（複数回答）

- \* 現在実施しているものでは、「市内企業等からの求人申込」が 100.0%と最も多く、次いで「大学の就職イベントへの市内企業等の参加」(66.7%)、「市内企業等へのインターンシップの実施」(46.7%)と続く。
- \* 今後実施したいものでは、「大学の就職イベントへの市内企業等の参加」「市内企業等へのインターンシップの実施」の2点が 20.0%と最も多いが、現在実施しているものと比べて全体的に回答が少ない。

| 茨木市内の企業等との関わり        | 【現在実施している】 |        | 【今後実施したい】 |       |
|----------------------|------------|--------|-----------|-------|
|                      | 回答数        | 構成比    | 回答数       | 構成比   |
| 市内企業等からの求人申込         | 15         | 100.0% | 2         | 13.3% |
| 大学の就職イベントへの市内企業等の参加  | 10         | 66.7%  | 3         | 20.0% |
| 市内企業等へのインターンシップの実施   | 7          | 46.7%  | 3         | 20.0% |
| 市内企業等による学生向け単独説明会の実施 | 4          | 26.7%  | 2         | 13.3% |
| 市内企業等による学生向け単独見学会の実施 | 1          | 6.7%   | 2         | 13.3% |
| 学生と市内企業等の従業員との座談会    | 1          | 6.7%   | 2         | 13.3% |
| その他                  | 1          | 6.7%   | 0         | 0.0%  |
| 特にない                 | 0          | 0.0%   | 0         | 0.0%  |
| 無回答                  | 0          | 0.0%   | 10        | 66.7% |

[問16]茨木市内の企業等との関わり(N=15)

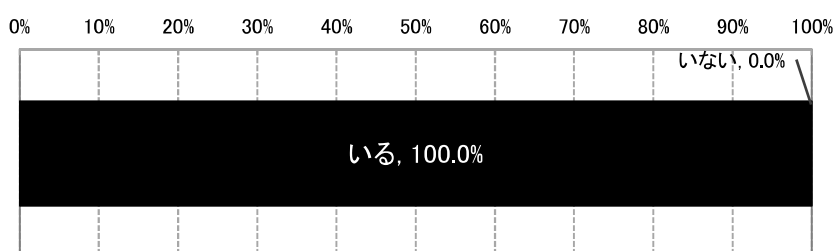


## 問 17. 茨木市内の企業等に就職した学生

- \* 茨木市内の企業等に就職した学生がいると回答した大学・短大は 100.0%であった。

| 【茨木市内の企業等に就職した学生】 | 回答数 | 構成比    |
|-------------------|-----|--------|
| いる                | 15  | 100.0% |
| いない               | 0   | 0.0%   |

[問17]茨木市内の企業等に就職した学生 (N=15)



## 問 18. 行政と連携すれば効果があると考えること

- ＊ 具合的な回答がみられた 7 機関におけるキーワードを整理すると、「市内企業インターンシップ」を回答する大学・短大が 4 機関と最も多く、さらに障がい者や管理栄養士・栄養士など特定の層に関するインターンシップを求める意見もみられた。
- ＊ この他に、「市役所との情報交換」「就職面接対策」「留学生向け対応」「就職相談会」といった回答があげられた。

### 【回答内容】

| キーワード                          | 具体的な回答内容                                                             |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| ▶市内企業インターンシップ                  | インターンシップや職場見学会など、仕事理解のための機会づくり                                       |
| ▶市内企業インターンシップ                  | 学生のインターンシップの受入れに関する受入れ先とのマッチングの機会づくり                                 |
| ▶市内企業インターンシップ<br>(管理栄養士・栄養士向け) | 夏休み等長期休暇中の管理栄養士・栄養士(病院・保育園)インターンシップの実施                               |
| ▶市内企業インターンシップ<br>(障がいを持つ学生向け)  | 障がいをもつ学生が就職することが困難なため、市役所で実施しているインターンシップ等を案内、参加を促して当該学生の就業体験を深めさせたい。 |
| ▶市役所との情報交換                     | 本学では、保健師養成を行っているため、行政保健師に関する情報交換やさらなる求人の提供があればありがたい。                 |
| ▶就職面接対策                        | ハローワークによる就職面接対策                                                      |
| ▶留学生向け対応                       | 外国人留学生(英語基準を含む)を対象とした就職に関する企画                                        |
| ▶就職相談会                         | 茨木市主導での市内企業や団体等を集めた説明会実施など                                           |

## 問 19. 就職支援に取り組む上での課題

- ＊ 具合的な回答がみられた 6 機関における課題をキーワード整理すると、「就職活動の早期化」の回答が 3 機関と最も多い。また、「セミナー参加率低下」「多様な就職支援」の回答も 2 機関からあった。
- ＊ この他に、「学生の意識の二極化」「学生の意識啓発」「志望の絞り込みすぎ」「未内定学生への支援」があげられた。

### 【回答内容】

| キーワード      | 具体的な回答内容                                                                                                                                                                                                             |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ▶就職活動の早期化  | ・就職活動の早期化による学業機会の損失                                                                                                                                                                                                  |
| ▶学生の意識の二極化 | ・就業意欲の高い学生と低い学生の二極化の拡大                                                                                                                                                                                               |
| ▶セミナー参加率低下 | 就職支援サービスが多様化し、学生が情報を得る手段が増えていることから大学主催のガイダンスや説明会への参加率は減っている。自走できる学生は問題が無いが、そうでない学生の支援が重要となっている。また、英語基準の留学生の日本就職の支援や様々な個性を持つ学生の支援など、個別支援も多様化している。採用選考が年々早期化・長期化しており、学業や研究と就職活動の両立に苦勞する学生も多い。就職活動支援だけでなく精神面でのケアも必要である。 |
| ▶多様な就職支援   |                                                                                                                                                                                                                      |
| ▶就職活動の早期化  |                                                                                                                                                                                                                      |
| ▶就職活動の早期化  | ・就職活動の長期化、早期化への対応                                                                                                                                                                                                    |
| ▶多様な就職支援   | ・多様な学生に対する就職支援(大学院生、留学生、障がいのある学生)                                                                                                                                                                                    |
| ▶学生の意識啓発   | 学生の就職活動への意識、ガイダンス・セミナー等への参加率の低さ                                                                                                                                                                                      |
| ▶セミナー参加率低下 |                                                                                                                                                                                                                      |
| ▶志望の絞り込みすぎ | 業界研究が不十分なまま早期から一部の有名企業や食品業界等の分かりやすい企業のみを対象として学生が就職活動を行っている。エントリー数が少なくなっていることから、進路選択の視野が狭い学生が多いと思われる。                                                                                                                 |
| ▶未内定学生への支援 | 未内定学生への支援は課題の一つと考える。接点(連絡)をもつこと自体困難な学生もあり、現状の把握や学生が望む企業へ就職させることが困難である。                                                                                                                                               |